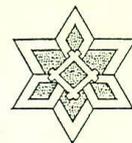


# ふくい

舞鶴市立福井小学校

令和5年8月30日発行

(本年度6号)



城北中学校区小中一貫教育

次代を担う児童生徒の育成

## 始業式...2学期が始まります

今年には正に、猛暑を肌で感じた夏休みでした。雨が少なくグラウンドもカラカラ状態。しかし、お盆を狙い撃ちしたかの様に、台風7号が発生し近畿地方を縦断しました。学校は15日～16日にかけて避難所となり、学校で夜を明かした避難者の方もおられました。台風が最接近する前から雨量が急激に増加。土砂の流出や浸水など大きな被害をもたらし、各地の様子を伝えるテレビ中継では、舞鶴市内の被害状況が何度も映し出されました。

台風の通過後は、また厳しい暑さがぶり返し、一向に涼しくなる気配がありません。この暑さは、いつまで続くのでしょうか。まだまだ暑さ対策にも注意が必要です。

さて、毎年様々なドラマが生まれる「全国高等学校野球選手権大会」。今年には慶應義塾高等学校が107年ぶりの優勝を果たしました。強豪校を次々と破り決勝に進み、大会2連覇を目指す去年の覇者、仙台育英学園高等学校との決勝戦では、点差こそ開きましたが、見応えのある好ゲームでした。慶応高校と言えば「エンジョイ ベースボール」ENJOYと言っても、楽をしてへらへら笑いながら野球を楽しんでいるわけではなく、同校は「好きな事こそ、自分で考えないと楽しくない」という理念のもと「野球を楽しむためには何が必要で、どんな努力をするのか」選手一人一人が主体的に考え、一生懸命野球に打ち込む事を主眼にしています。これは昭和初期に慶応大学野球部監督 腰元 寿氏の「スポーツ本来の楽しさ」を追い求める発想に端を発し、代々の監督に引き継がれてきた考え方だそうです。そして前監督の 上田 誠 氏が、野球を心から楽しむ環境づくりを目指して「エンジョイ ベースボール」の取組を始められました。

現監督の 森林貴彦 氏は小学校の教員です。昼間は小学生、夕方からは高校生と向き合い「自分で考えて行動する力の育成」を実践されています。「小学生も高校生もここで終わりではなくこれからの未来が待っている。子ども達を将来へ導く指導者として、物事を違った角度から観たり、固定概念を時代に合わせて変革したりする事が大切である。」と言われます。そして、選手自身が自分やチームに足りないもの、何が必要なのかを見付け、練習の仕方や時間の使い方などを自分達で考え決めるのだそうです。もちろん放任ではダメでしょう。監督として、選手の自己実現に向けてどう取り組めばよいのか、一人一人と向き合っておられるからこそ、選手が育つのだと思います。

「将来自分が人生の壁にぶつかった時、自分で未来を切り開かなければならない時、自分で考えて行動する力が必要である。サインを待ち指示通りに動くことに慣れてしまうと、自分で考えなくなる。」とも言われます。エースの 小宅雅己 選手は「自分で考える野球がしたい…」と慶応高校を選んだそうです。主将の 大村昊澄 選手は「髪型で議論されている時点ではまだまだ…（エンジョイベースボールの本質ではない）。」と自分達の野球に自信があります。「きれいごと」だと揶揄される事もありますが、野球を徹底的に楽しむ姿勢を貫いた結果、掴んだ栄冠でした。他校の選手が自分の考えがないとは思いませんし、個々の努力と経験から多くを学び人生を豊かにしているのは確かです。ただスポーツに向き合う違ったアプローチが結実したのだと思います。自分で目標を決めて努力する事は、苦しく辛い練習であっても納得して頑張れるのです。

今日から2学期が始まります。2学期は運動会やマラソン大会、音楽集会などの行事があります。また、10月31日には創立150周年記念式典も実施します。まだまだコロナ禍を抜け出したわけではありませんが、子ども達が充実した学校生活を送れるようご理解・ご協力をお願いいたします。

校長 波多野 暢 教職員一同



グラウンドの百日紅